

## 7月2日(日)

聖書

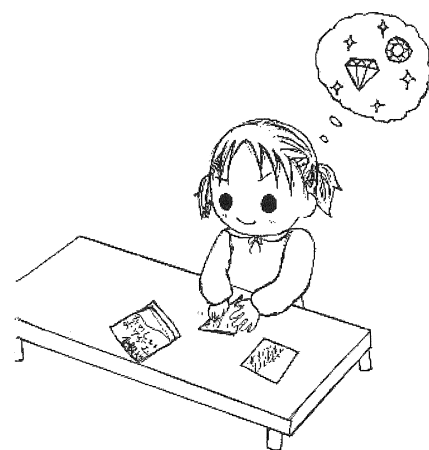
使徒3・1～10

聖句

金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。6節

「お金さえあれば何でもできるし、将来も安心、お金がすべてだ！」と多くの人が考えているかもしれない。でも、心のかたがたでそう考えている？ 生れながら足のきかぬこの男の人もそう考えて、人々に施しを求めていたのです。しかし、ペテロとヨハネは全然ちがいました。お金は無いけれども、「わたしにあるものをあげよう」。そう言ってイエス・キリストの名によって歩くよう命じると、彼は立つことができました。一番の必要が満たされました。

祈り 天のお父様、大切に必要なのは、お金ではなく、イエス様の御名を信じる信仰であることがよくわかりました。



聖書

使徒3・1～10

タイトル

美しの門

暗唱聖句

金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。  
使徒3・6

目 標

イエス・キリストの御名の力を  
知る。

## 7月4日(火)

聖書

使徒3・3～6

聖句

ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言っ  
た。 4節

ペテロとヨハネの大胆ぶりには驚かされま  
す。「わたしたちを見なさい」と言いながら、  
この男の人をじっと見ていたのです。あなた  
もだれかの前で、「わたしを見なさい」なんて  
言えるでしょうか？ うーん、それはちょっと  
困るな、自信がないと思いますか？ ペテロと  
ヨハネは、何か物をもらえろと思っている男  
の人の手を振り払って、「あなたが一番必要と  
するものをあげます。見なさい」と確信に満  
ちて言いました。イエス様を信じる信仰によ  
る確信だったのです。

祈り 天のお父様、私もペテロやヨハネのように  
確信に満ちて、「わたしを見なさい」と言えるよ  
うにしてください。

## 7月3日(月)

聖書

使徒3・1～2

聖句

ペテロとヨハネとが、午後三時の祈  
りのときに宮に上ろうとしている  
と、生れながら足のきかない男が、  
かかえられてきた。 1、2節

人生は出会いで決まるとよく言われま  
す。すばらしい出会いは神様が与えてく  
ださるものです。あなたにこれまでよい  
出会いをくださった神様に、心から感謝  
しましょう。ここで、この足の動かない  
男の人にとっては人生最高の出会いが、  
思いもかけず与えられました。ペテロと  
ヨハネもいつものようにお祈りのために  
宮に上ろうとしていた時でした。神様が  
ペテロとヨハネ、そして男の人をちよつど  
よい時に会わせられました。

祈り 天のお父様、私のすべての必要のため、イ  
エス様との出会いという人生最高の出会いをく  
ださって感謝します。

## 7月6日(木)

聖書

使徒3・11~16

聖句

神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたしたちは、その事の証人である。 15節

人々は、ペテロとヨハネに付きまとい、彼のことで議論しました。「エ?! 何事だ。」  
「あれが本当に施しを求めていた男か?」  
「そんなはずはない、足がきかないはずだ」  
「や、たしかにあの男だ」と。そして人々はあまりの驚きに、彼らのいた「ソロモンの廊」に集まって来ました。ペテロは言います。「なぜ不思議がるのか。あなたがたが殺したいのちの君イエスを神はよみがえらせたのだ。このイエスの名を信じる信仰が彼を強め、立たせ、完全にいやしたのである」と。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様を死人の中からよみがえらせた、あなたの御力をほめたたえます。復活の証人としてください。

## 7月5日(水)

聖書

使徒3・7~10

聖句

歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいつて行った。 8節

「ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」とのペテロの力強い言葉、そしてペテロが右の手をとって起こしてくれまう。するとどうでしょう! 一度も立つたことも歩いたことも、跳んだり、はねたりしたこともない自分の足とくるぶしとがたちまち、急に強くなるのが分かりました。踊りあがって立ち、歩き出しました! 歩き回ったり踊ったりして神様をさんびしながら、みんなと一緒に宮に入って行くことができたのです。何という奇跡!

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様のお名前の力、つまりイエス様にはすべての権威と力が与えられていることを信じて感謝します。

## 7月8日(土)

聖書

使徒3・22~26

聖句

あなたがたひとりびとりを、悪から立ちかえらせて、祝福にあずからせるためなのである。 26節

「祝福」っていい言葉ですね。「ゴッド・ブレス」ユ一ってみなさんも知ってますね。英語で「Bless you」と書きます。選民の父祖アブラハムも祝福の基として立てられました。その子孫からイエス・キリストが神に立てられてお生まれになり、十字架の上で死なれ、三日目によみがえられました。それは、私たち一人一人を、悪の道、罪の生活からきよい神様との交わりに入る祝福にあずからせるためでした。イエス様にあつて、あなたは祝福された子どもなのです。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様の十字架にすべてののろいがつけられ、今、私は祝福の子どもとされていることを感謝します。

## 7月7日(金)

聖書

使徒3・17~21

聖句

自分の罪をぬぐいさっていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。 19節

「父よ、彼らをおゆるしくください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23・34)と、イエス様は十字架の上で祈ってくださいました。ペテロもここで、「あなたがたは知らずにあのような事をした」(17)と言います。でもキリストの十字架に預言が成就しました。今や自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ち返る時が来たのです。あなたはもう悔い改めて、罪をぬぐい去っていただいて、神の子とされていますか。

いのちの祈り  
天のお父様、分らずに犯した罪も分かかって犯した罪もすべておわびして、十字架のゆえに赦していただいて感謝します。

7月9日(日)

聖書

使徒4・1~22

聖句

この人による以外に救はない。  
12節

ペンテコステに聖霊を受けた弟子たちが、  
どんなに力強い主の証人となったかよく  
わかります。役人や長老、律法学者たち、  
それに大祭司アンナスやカヤパ、ヨハネ、ア  
レキサンデル、そのほか大祭司の一族の前  
で、ペテロが聖霊に満たされて言ったので  
す。「この人による以外に救はない。わた  
したちを救いうる名は、これを別にして  
は、天下のだれにも与えられていない！」  
と。この確信、この勇気と大胆、これはすべ  
て聖霊に満たされてできることです。

いのちの祈り  
天のお父様、イエスのみ名のみ、人を救うと  
いうことを堅く信じます。このことを大胆に人々  
に語らせてください。



聖書

使徒4・1~22

タイトル

救いうる名

暗唱聖句

この人による以外に救はない。  
使徒4・12

目

標

私たちを救いうる名は「イエス」  
のみと信じる。

7月11日(火)

聖書

使徒4・5~12

聖句

「あなたがたは、いったい、なんの  
権威、また、だれの名によって、こ  
のことをしたのか。」  
7節

その時の世の中すべての権威が集まって  
きて、使徒たちに迫って問いました。  
なんの権威で、だれの名によってこの足の動  
かない男を立たせたのかと。その時、ペテ  
ロは、聖霊に満たされて語り出しました。  
大祭司のカヤパやアンナスだって、その一族  
だって恐れることはありません。「この人が  
こうして立っているのは、あなたがたが  
十字架につけて殺したのを、神が死人の中  
からよみがえらせたナザレ人イエスの御名  
による」と！

いのちの祈り  
天のお父様、よみがえりのイエス様こそ、す  
べての権威権力の持ち主です。その御名に力が  
あることを信じます。

7月10日(月)

聖書

使徒4・1~4

聖句

彼らの話を聞いた多くの人たちは  
信じた。そして、その男の数が  
五千人ほどになった。  
4節

ただ、イエス様を信じるだけで罪がゆるさ  
れ、永遠の命が与えられるということは、これ  
以上ないグッド・ニュースです。その福音を伝え  
るという、これ以上ない最高のよいことをして  
いるのに、捕らえられて、夕暮れから次の朝ま  
で留置所に入れられるなんて！でも彼らが  
語ったメッセージは、力強く人々の心に響き  
ました。彼らの話を聞いた多くの人たちは信  
じたとあり、男の人だけでも五千人ほどになっ  
たのでした。婦人たちや子どもたちを入れると  
?! 何という大胆な証人！

いのちの祈り  
天のお父様、災いがふりかかってくるよう  
に見えても、あなたのわざは力強く進められる  
ことを信じていきます。

## 7月13日(木)

聖書

使徒4・15～22

聖句

「わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない。」 20節

全く返す言葉がなくなった、この世の権威者たちはどうしたでしょうか。二人を議会から退場させて相談しました。「これからもうこの名によっていつさいだれにも語ってはいけない」とおどしてやろうと。そして二人を呼び入れ、イエスの名によって語るな、説くなどおどしました。すると二人は、「神に聞き従うほうが神の前に正しいのです。わたしたちは証人として見たこと聞いたことを語らないではおられません」と、またしても大胆に話したのでした。

**いのちの祈り** 天のお父様、どんなにおどされても禁じられても、私たちが主の証人として、どこでも、だれにでも証しさせてください。

## 7月12日(水)

聖書

使徒4・13～14

聖句

人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。 13節

そんな大胆な弟子たちを見た後、ペテロとヨハネが漁師という無学で平凡な人たちであることを知って、人々はとても不思議に思ったのでした。その秘密は？「彼らがイエスと共にいた者であることを認め」(13)とあります。しかも、足のきかなかった人が完全になおって彼らのそばに立っています。返す言葉もありません。だれでも、イエス様と共にいる時、勇氣と大胆さが与えられます。今日、あなたにも主が共におられます。

**いのちの祈り** 天のお父様、今日もみ言葉を讀み、お祈りをして、イエス様と共に一日をすごせますようお守りください。

## 7月15日(土)

聖書

使徒4・32～37

聖句

使徒たちは主イエスの復活について非常に力強くあかしをした。 33節

信じた人の群れ、そう、はじめての教会ですね。みんな心を一つにし、思いを一つにし、すべての持ち物をいっしょに使うというほど仲良しだったのです。そして一つのことに向かって励みました。それは「主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした」ということです。イエス様の復活の力強い証人となったのです。そうです。イエス様はよみがえって今も生きておられ、共にいてくださる救い主です。私たちがこの復活という、希望の中の希望をあかししましょう。

**いのちの祈り** 天のお父様、復活された救い主イエス様にこそ、すべての希望があることを、伝える子どもにしてください。

## 7月14日(金)

聖書

使徒4・23～31

聖句

主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。 29節

おどされ、許された二人は、仲間たちのところに帰ってすべてのことを報告しました。仲間たちみんなはその報告を聞くと、口をそろえて、神にむかつて声をあげました。つまり、みんなでお祈りをしたのでした。私たちに、思い切って大胆にみ言葉を語らせてくださいと。彼らはいつでも、どんなときでも祈ったのでした。祈り終えると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神様の言葉を語りだしました。聖霊による完全勝利です。

**いのちの祈り** 天のお父様、お祈りの力の大きさがよくわかりました。祈るとき聖霊を注がれて、ますます力を与えられ感謝です。



# 7月16日(日)

聖書

使徒5・1～11

聖句

あなたは人を欺いたのではなく、  
神を欺いたのだ。 4節

教会は神様の教会です。その中には聖なる神様が共におられます。初めの教会の人々は心を一つにし、持ち物も分かち合っていました。バルナバのように畑を売り、代金を献げる人もいました。ところが、サタンに心を奪われ欲が出たアナニヤとサツピラ夫妻は、外から見ればバルナバと全く同じことをしているようでも中身はまるでちがっていて、人ではなく神様を欺きました。恐ろしく厳しい刑罰がくだり、教会全体や伝え聞いた人々は非常な恐れを感じました。

祈り 天のお父様、あなたを欺くことがどんなに恐ろしい罪であるかを知り、ますます、あなたを敬う者にしてください。



聖書

使徒5・1～11

タイトル

神の教会

暗唱聖句

あなたは人を欺いたのではなく、  
神を欺いたのだ。

使徒5・4

目標

神を欺く罪の恐ろしさを知り、  
神を畏れて歩む。

# 7月18日(火)

聖書

使徒5・17～21a

聖句

「さあ行きなさい。そして、宮の庭に立ち、この命の言葉を漏れなく、人々に語りなさい。」 20節

しつととかねたみとか、やつかみなどというやつかいな心、わかりますか？ 他の子どもがよくできたり、ほめられたりする時、どんな気持ちになりますか？ しつとが心に満ちると、この大祭司とその仲間の者、すなわちサドカイ派の人たちのようなことをしてしまいます。使徒たちは捕らえられ、留置場に入れられてしまいました。しかしその夜、主の使いが獄の戸を開き、使徒たちを連れ出して「語りなさい」と言います。彼らは夜明けから、もう宮に入って教えはじめたのです。

祈り 天のお父様、どんな困難な中でも、主の使いをおくって命の言葉を語らせようとされるあなたの心がよくわかりました。

# 7月17日(月)

聖書

使徒5・12～16

聖句

そのころ、多くのしるしと奇跡とが、次々に使徒たちの手により人々の中で行われた。 12節

「聖霊がくだる時、あなたがたは力を受けます」と、イエス様が約束されたとおり、使徒たちは力に満ちて、次々としるしと奇跡を行っていました。そして、主を信じる仲間、男の人も女の人もたくさん加わるようになりました。さらにすごいのは、ペテロの影がかつて病人がいやされてほしいと、病人を寝床の上に置いて大通りに運び出す人々が現れました。エルサレム附近の町々からも大勢の人々が悩み苦しむ人たちを連れてきて、何と一人残らずいやされました。

祈り 天のお父様、昔の弱い弟子たちとは全くちがう使徒たちの力は、聖霊によって与えられたことを知りました。

7月20日(木)

聖書

使徒5・33～42

聖句

使徒たちは、御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜びながら、議会から出てきた。41節

あなたの喜びは何でしょう？ 欲しいものが手にはいった時、思いっ切り遊べる時、おいしいものを食べる時かな？ この使徒たちはイエス様こそ救い主だとあかしして、殺されそうになったのでした！ ガマリエルという尊敬されていた律法の先生が賢い助言をして守られました。でも、むちで打たれたうえに、もうイエスの名によって語るなど言われ、やっとゆるされました。使徒たちは、イエス様の御名のために恥と苦しみを受けることができました。このことを喜んだのでした！

いのちの祈り

天のお父様、使徒たちの心の深いところからくる喜び、イエス様のために苦しむことを喜ぶ喜びを教えてください。

7月19日(水)

聖書

使徒5・21b～32

聖句

人間に従うよりは、神に従うべきである。29節

大祭司とその仲間の者とは、議会とイスラエル人の長老一同とを集めました。使徒たちを引き出してこさせるためでした。獄につかわした人々から意外な報告が入りました。獄が空っぽだということです。あわてているところへある人がきて知らせました。「彼らは宮の庭に立って民衆を教えている」と！ 議会に立たせた使徒たちに、「あの名を使って教えるなど言ったはずだ」と言う、「人より神に従うべき」という大胆な言葉が返ってきました。

いのちの祈り

天のお父様、この答は聖霊によるものです。人を恐れしないで神様のみを恐れ、大胆に語らせてください。

7月22日(土)

聖書

使徒6・8～15

聖句

彼の顔は、ちょうど天使の顔のように見えた。15節

七人の中のひとりに「ステパノ」の名が一番にあげられています。恵みと力とに満ちて、めざましい奇跡とするしを行っていました。議論においても知恵と御霊とで語るステパノには、だれも対抗できませんでした。そういうステパノを憎らしく思う人々が他の人々をそのかして偽りを言わせ、ステパノをおそって捕らえさせ、議会にひっぱってこさせました。荒々しく議会の席にいていた人々の目に、ステパノの顔は天使の顔のように見えたとは何という驚き！

いのちの祈り

天のお父様、私もステパノのように聖霊に満たされて、「天使のような顔」の持ち主になりますよう助けてください。

7月21日(金)

聖書

使徒6・1～7

聖句

わたしたちは、もっぱら祈りと御言のご用に当ることにしよう。4節

神の教会でも、もめごとがおこります。弟子の数がふえてきたことも原因の一つでした。やもめたちから毎日の食べ物配給のことで苦情が出ました。さてこの問題はどうか解決されたでしょう。「御霊と知恵とに満ちた、評判のよい人たちが七人」が選出されて、教会のお仕事についてもらうことになりました。使徒たちはほかのことはしないで祈りとみ言葉のご用に当ることにしました。これはすばらしい解決でした。こうしてエルサレムの教会に弟子がふえていきました。

いのちの祈り

天のお父様、教会内に問題がおきた時、まずはお祈りをして、あなたからの解決を求めることができますように。

# 7月23日(日)

聖書

使徒7・51～60

聖句

主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい。  
60節

聖霊は、イエス様の霊です。その聖霊に満たされるということがどんなに勝利と栄光に輝くものであるか、ステパノの姿を見るとよくわかります。議会にいる人々に向かって大胆にも、「いつも聖霊に逆らっているあなた方」とさし示す大胆さも聖霊によります。人々の怒りが頂点にきて歯ざしりします。「人の子が神の右に立っている」と、天を仰ぐステパノに石がなげつけられます。痛みと苦しみの絶頂でこのように祈るステパノは聖霊の人でした。

いのちの祈り 天のお父様、教会の最初の殉教者ステパノの聖霊による祈りにならうものにして下さい。



聖書

使徒7・51～60

タイトル

殉教者ステパノ

暗唱聖句

主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい。  
使徒7・60

目標

殉教者ステパノの祈りに学ぶ。

# 7月25日(火)

聖書

使徒7・57～58

聖句

これに立ち合った人たちは、自分の上着を脱いで、サウロという若者の足元に置いた。  
58節

神様のなさることにムダなことはひとつもありませんし、神様の驚くばかりのご計画は、人々の気づかない所で着々と運ばれていくのです。血なまぐさい、激しい殉教の場面に立ち合った二人の若者、その名はサウロ。彼もまたステパノを殺すことに賛成して、たし(8・1)、大迫害者だったのです。神様はそのサウロにステパノのきよい殉教者の姿を見せられました。サウロのために知らず知らずの準備として、一粒の麦ステパノの姿でした。

いのちの祈り 天のお父様、時々あなたのご計画がわからない時にも、まちがいに進められていることを知りました。

# 7月24日(月)

聖書

使徒7・54～56

聖句

「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える」と言った。  
56節

私のことだれもわかってくれないなあ、そうじゃないんだけどと思う時、天を仰ぎましよう。ステパノの場合は、命をかけた瞬間でした。周囲のすべての人々が憎しみと殺意をもって押しよせてくる中で、天を見つめたのです。その時彼の眼に映ったのは、人の子イエスキリストが立ち上がってくださる姿でした。キリストを命がけであかししたステパノを、唯一弁護してくださる方です。主を信じる者のためには、四方八方がふさがっても天が開かれています。

いのちの祈り 天のお父様、ステパノの時も今も変わりなく、イエス様が私の弁護者として天にいてくださることを感謝します。

# 7月27日(木)

聖書

マタイ 5・43～48

聖句

敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

44 節

ステパノは使徒でもなく預言者でもなく、一人の聖霊に満たされた信徒でした。イエス様を愛し、イエス様の教えを尊び、イエス様の生き方をしっかりと身につけた人だったことがよくわかります。ステパノはまさに、このマタイ5・44をちゃんと心にとめていた人でした。まがいなく敵対し殺そうとまでする人々、迫害する人々のためにとりなしの祈りをしました。祈るということは愛することなのです。聖霊の助けによって祈る時、愛の人になれるのです。

**いのちの祈り** 天のお父様、イエス様のこの教えは不可能ではなく、聖霊の助けによってできることをステパノから教えられました。

# 7月26日(水)

聖書

使徒 7・59～60

聖句

ステパノは祈りつづけて言った、「主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい」。

59 節

いつでも、どこでも、何でも、初めから終わりまで祈り。これを「万事祈禱」というのです。ステパノも耐えられないような痛みの中、きつと息も絶え絶えになって祈ったのでしよう。自分の地上の生涯もこれまでとわかって、「主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい」と祈りました。私の霊魂はあなたの御手の中ですと。いつの日か、私たちも死ぬ時がきます。私たちの肉体は人々にあずけますが、魂は神様の確かな御手におまかせできるので感謝です。

**いのちの祈り** 天のお父様、あなたを信じる私たちにとって死は一時の眠りで、やがてイエス様のようによみがえると信じます。

# 7月29日(土)

聖書

ルカ 23・44～49

聖句

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。こう言って、ついに息を引きとられた。

46 節

私たちと同じ肉体をとってこの地上にきてくださったイエス様は、すべての面で私たちの最高のお手本ですね。イエス様と出会うまでは、人間がどこからきて、何のために生きて、死ぬとどうなるのか、だれにも本当のことがわからないのです。イエス様にお会いしてはじめて本当のことがわかります。イエス様も十字架の上で死なれる前にこのように祈られました。ステパノもそうでした。イエス様を信じる私たちも同じように祈れるので幸せです。

**いのちの祈り** 天のお父様、私のために十字架で死んでくださったイエス様の最後の祈りを、私もお祈りができることを知りました。

# 7月28日(金)

聖書

ルカ 23・32～38

聖句

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。

34 節

ステパノは父なる神様というよりは、「主イエスよ」、とイエス様に呼びかけています。イエス様がそれほど彼の近くにいてくださったのでしょうか。そのイエス様がまず、十字架の上で祈ってくださいましたのがこのとりなしのお祈りでした。たしかに何をしているのかわからずに罪を犯し続けてきたこともあります。しかし、よくわかって罪を犯し続けてきたこともあります。それなのに、イエス様はこのように祈ることによって、完全なゆるしを約束していただくのです。

**いのちの祈り** 天のお父様、イエス様が十字架の上で一番にゆるしのお祈りをしてくださって、完全にゆるされることを感謝します。

7月30日(日)

聖書

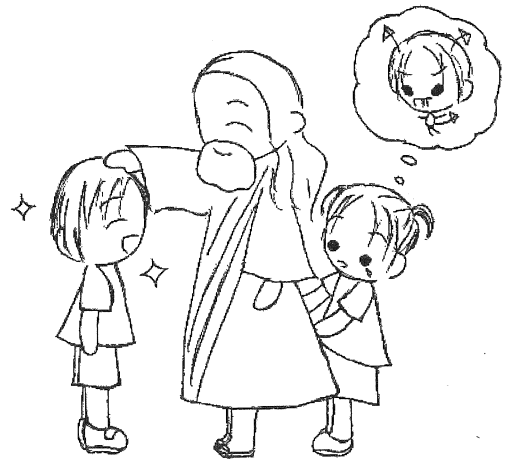
使徒9・1~19

聖句

彼はいま祈っている。 11節

大迫害者、迫害者のリーダーのようなサウロに  
起こった突然の変化！興味しんしんですね。エ  
ルサレムからダマスコへ逃げた者たちをも捕えよ  
うと、迫害の息をはずませてダマスコの近くまで  
来ました。突然！天から真昼の太陽よりもま  
ぶしい光！復活のキリストがあらわれ、目が  
見えなくなったサウロを導きます。3日間の  
暗黒の中、断食をして祈ったとき、どうすべきか  
教えられました。アナニヤの祈りで目が開かれ、  
大使徒パウロへの一大回心がなされました。

祈り 天のお父様、あなたにはできないことは何一  
つありません。迫害者サウロをさえ変えられた、  
あなたの御力をほめたたえます。



聖書

使徒9・1~19

タイトル

サウロの回心

暗唱聖句

彼はいま祈っている。

使徒9・11

目 標

迫害者のサウロをさえつくり変  
えられたキリストを信じる。

8月1日(火)

聖書

使徒9・10~19a

聖句

わたしの名のために彼がどんなに苦し  
まなければならないかを、彼に知  
らせよう。 16節

サウロの回心のために用いられたのはアナニ  
ヤというお弟子さんでした。「エーッ！神様、  
あの迫害者サウロの所へ行つて祈るのです  
か!？」と彼はびっくりし、しりごみをしたの  
がよくわかります。でも大丈夫、神様がそう  
言われるのですから！神様はもうこの時  
に、「あのサウロという人物はわたしが選んだ  
器です、異邦人たち、王たち、イスラエルの子  
らにわたしの名を伝える者であり、しかも多  
くの苦しみを味わうのです」と語っておられ  
ます。不思議な選びです。

祈り 天のお父様、あなたはどのような人でも見事  
につくり変えて、主の名を伝えるために用いられ  
るとわかりました。

7月31日(月)

聖書

使徒9・1~9

聖句

「サウロ、サウロなぜわたしを迫害  
するのか」 4節

あれ!?! おかしい、天からの復活のイエス様の  
声は、ちよつと間違つていませんか? と思いま  
す。サウロはイエス様を信じるクリスチャンたちを  
迫害するためにきたのですが……「主よ、あなた  
は、どなたですか」とのサウロの問いに「わたし  
は、あなたが迫害しているイエスである」と言われ  
ます。そう、クリスチャンを迫害するということ  
はイエス様を迫害することだと悟りました。ダマ  
スコにいた小さな羊の群れ(クリスチャン)のため  
に、羊飼(パウロ)があらわれました。

祈り 天のお父様、復活のイエス様は、いつも信じ  
る者と共にいて、守っていてくださることを知  
り、感謝します。

## 8月3日(木)

聖書

使徒9・26～31

聖句

こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤ全地方にわたって平安を保ち、基礎がかたまり、主をおそれ、聖霊にはげまされて歩み、次第に信徒の数を増して行った。 31節

大迫害者サウロの回心、そのサウロを守られる主の御手、さらにサウロを温かく受け入れ、とりなすバルバナの登場、それでもまだサウロを殺そうとねらうユダヤ人もいました。サウロはタルソへ送り出されました。このようにして大迫害者がキリストのものとなされたので、教会はおだやかに、基礎がしっかりと固まって、主をおそれ、成長していききました。

祈り 天のお父様、あなたはあなたの力と方法であなたの教会を守り、育ててくださることを知り心強く思います。

## 8月2日(水)

聖書

使徒9・19a～25

聖句

直ちに諸会堂でイエスのことを宣べ伝え、このイエスこそ神の子であると説きはじめた。 20節

サウロはアナニヤの祈りによって3日ぶりに目が開かれました。そのとき、一番はじめに見たのは、「兄弟サウロよ」と語りかけ祈ってくれたアナニヤの顔でした。やさしさに満ち、主イエスの愛をうつつし出しているような顔に、サウロは改めて感動したにちがいありません。バプテスマを受け、食事をとって元氣を取りもしました。その数日後から、あちこちのユダヤ人の会堂でイエス様のことを宣べ伝えるのですから、人々はびっくり仰天！とも信じられなかったのです。

祈り 天のお父様、これほどにもサウロをつくり変えられたあなたは、今も人々を新しくしてくださることを信じます。

## 8月5日(土)

聖書

Iコリント15・1～11

聖句

しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。 10節

「私が最も大事なことであなた方に伝えたのは、私も受けたことで、それは、聖書に書いてあるとおり、イエス様が死んで葬られ、3日目によみがえって現れてくださったことです。パウロは書きます。さらに「ケパ(ペテロ)や12人、また五百人以上の兄弟たち、ヤコブに使徒たちに、そして最後に、月足らずに生れたような私にも復活の主が現れてくださった」とあかしします。すべては神の恵み、だれよりも多く働いてきたことも、すべて神の恵みだと言います。

祈り 天のお父様、パウロに注がれた神の恵みは、今日私にも同じように注がれていることを心より感謝します。

## 8月4日(金)

聖書

ガラテヤ1・11～23

聖句

わたしは、それを人間から受けたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。 12節

サウロ、のちのパウロの生涯を決めた、あのダマスコでの経験を思い出して、パウロは手紙の中で、主をあかししています。「母の胎内にある時からわたしを聖別し、み恵みをもってわたしをお召しになったかた」と言い、その方が「御子をわたしの内に啓示して下さった」と言います。そしてパウロが宣べ伝えている福音は、人からでなく、ただイエス・キリストが真理を示されたのだと。神様のほうから心の目を開いて示してくださるのです。

祈り 天のお父様、サウロの目からうろこを落とされたあなたが、私の心の目も開いて福音を教えてくださいお願いします。

## 8月6日(日)

聖書

使徒10・9～22

聖句

神がきよめたものを、清くないなど  
 と言ってはならない。 15節

あなたはよく夢を見ますか？ よい夢はうれしいですね。神様は夢の中でも語られますよ。ペテロの夢、あるいは幻は、その時は一体何のことかすぐにはつきりとわからなかったのです。神様は何か重大なことを自分に語りかけておられるのだということは、ペテロにもわかったと思います。天から大きな布が四すみをつるされて降りて来ました。その中の生き物を食べなさいと言われて「できません」と言っていると、このみ言葉が語られました。さて!? これはいったいどういうことでしょうか。

**祈り** 天のお父様、いろんな形で語られるあなたからの語りかけに、心を開いて悟れるようにしてください。



聖書

使徒10・9～22

タイトル

ペテロの夢

暗唱聖句

神がきよめたものを、清くないなどと言ってはならない。  
 使徒10・15

目標

神からの語りかけに心を開こう。

## 8月8日(火)

聖書

使徒10・9～16

聖句

すると、天が開け、大きな布のような入れ物が、四すみをつるされて、地上に降りて来るのを見た。 11節

さて、こちらペテロ。神様はちゃんと両方に働きかけられて、ご自分の大切な心をなして行かれます。ペテロもまたユダヤ人として毎日三度の祈りをしていました。その時は昼の12時ごろでした。これもとてもタイムリーですね。お腹をすかせたペテロの上に天が開けました。そこから大きな布が四すみをつるされて降りてきます。その中には、律法で食べるなど禁じられている動物たちがいっぱい！ これらを食べなさいだって？ 一体なんのことでしょうか？

**祈り** 天のお父様、あなたはちゃんと計画をもって事をなされます。その意味も必ず教えてください。と信じます。

## 8月7日(月)

聖書

使徒10・1～8

聖句

信心深く、家族一同と共に神を敬い、民に数々の施しをなし、絶えず神に祈をしていた。 2節

神様が新しい重大なことをなされようとした時、ペテロと共にもう一人、異邦人(ユダヤ人ではない他国の人の)百卒長コルネリオを用いられました。この人は信心深い人で、その家族の人々もみんな神を敬う人々でした。つまりユダヤ教の信仰をもって、唯一まことの神様を信じていたのです。周りの人々に親切な心をもっているという援助の手をさしのべ、いつも神様にお祈りをする人でした。その日もきつと祈っていた時でした。午後3時ごろ神様の使いの語りかけを聞きました。

**祈り** 天のお父様、あなたが新しいみわざをなさろうとする時、祈る人を用いられます。祈ってみる声を聞かせてください。



## 8月10日(木)

聖書

使徒10・23b~33

聖句

今わたしたちは、主があなたにお告  
げになったことを残らず伺おうと  
して、みな神のみ前にまかり出てい  
るのです。 33節

ついにペテロとコルネリオのご対面  
です。神様によってこの幸いな時が計画  
されたのでした。コルネリオは親族や  
親しい友人たちを呼び集めて、大ぜい  
で待つていました。ペテロはやっと理解  
して、幻の意味、つまり、どんな人間  
をも清くないとか、汚れているとか  
言うてはならないと示されたことを話  
しました。コルネリオも御使いの言った  
ことを告げ、こうしてみな神様の面前  
にまかり出ていると言いました。準備  
は整いましたね!

祈り 天のお父様、私たちと共に集まる時、あなたのみ言葉を残らず伺おうと、期待してみ前に出させてください。

## 8月9日(水)

聖書

使徒10・17~23a

聖句

さあ、立って下に降り、ためらわな  
い、彼らと一緒に出かけるがよい。  
わたしが彼らをよこしたのである。 20節

神様(GOD)のタイミングはいつもグッド  
(Good)タイミングです。今見た幻は何の  
ことだろうと頭をひねっている、ちよう  
どその時、コルネリオから送られてきた人  
たちが門口に立っていました。「ペテロと呼  
ばれているシモンというかたがこちらに？」  
と尋ねる間も、ペテロはなおも幻のこと  
を考えていました。御霊が「さあ行きな  
さい。わたしが彼らをよこしたので」と言うの  
で、ペテロは彼らと会い、わけを聞いて彼らを  
迎えて泊まらせました。

祈り 天のお父様、あなたはいつも一番良い時、美しい時に一人一人を導いてくださることを知り、感謝します。

## 8月12日(土)

聖書

エペソ2・17~22

聖句

彼によって、わたしたち両方の者が  
一つの御霊の中にあって、父のみも  
とに近づくことができるからであ  
る。 18節

イエス様の時代や、このペテロの夢以前  
には、ユダヤ人は絶対に異邦人と交わっ  
たり、食事を共にしたりしなかったのだ  
す。その壁はとつても堅くて厚いものでし  
た。けれども今や、あのコルネリオ一家の  
救いの日から、ユダヤ人も同じ一つの  
御霊にあつて父のみもとに近づくことが  
できるようになりました。キリストを隔  
のかしら石とする聖なる建物であり、天  
に国籍を持つ神の家族です。「キリスト・  
イエスにあつて一つ」(ガラテヤ3・28)で  
す。

祈り 天のお父様、私たち異邦人にもあなたの恵みと祝福が注がれるようにされたことの重大さを、深く思わせてください。

## 8月11日(金)

聖書

エペソ2・11~16

聖句

十字架によって、二つのものを一つ  
のからだとして神と和解させ、敵意  
を十字架にかけて滅ぼしてしまった  
のである。 16節

選民ユダヤ人の側から考えると、  
異邦人を主の民の交わりに迎えることは  
とつても考えられない事だったでしょ  
う。神様の知恵と方法で人々を用いて  
異邦人のために門を開いてくださいまし  
た。異邦人の側から言えば、とつてもな  
い大きな恵みへと招かれたのです。割れ  
(神様の命令の儀式)や契約(神様の約束)  
や律法(神様の戒め)と何の縁もなかつ  
た者が、ただイエス様の十字架を信じる  
だけで救われるのですから! 十字架を  
感謝しましょう。

祈り 天のお父様、十字架により二つのもの、選民と異邦人とを一つのからだとして、あなたと和解させてくださり感謝します。

# 8月13日(日)

聖書

使徒10・34～48

聖句

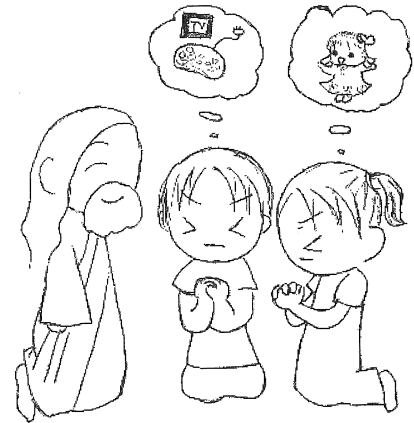
イエスを信じる者はことごとく、その名によって罪のゆるしが受けられる。

43節

「おお、聴く気満々！」とペテロは思ったでしょう。そこでペテロは聖霊に満たされ、聖霊に助けられつつ、イエス様の十字架と復活の話をしました。このナザレのイエス様、十字架で死んでみえたイエス様を信じるなら、すべての人が、異邦人であってもどんな人であっても、そのイエス様の名によって罪のゆるしが受けられると。ペテロの話がまだ終わらないうちに、聞いていた人々みんなに聖霊がくだりました。こうなると、もう疑うことができません。

祈り

天のお父様、イエス様を信じるならば、どんな人もすべて、イエス様の名によって救われることを感謝します。



聖書

使徒10・34～48

タイトル

コルネリオ

暗唱聖句

イエスを信じる者はことごとく、その名によって罪のゆるしが受けられる。使徒10・43

目標

異邦人にも福音の恵みが注がれることを知る。

# 8月15日(火)

聖書

使徒11・19～21

聖句

主のみ手が彼らと共にあったため、信じて主に帰依するものの数が多かった。21節

ステパノの殉教は悲しいできごとでしたし、迫害も恐ろしいものでした。しかし、神様はこのことも自分の栄光のために用いられました。迫害で散らされて行った人々はニケ、クプロ、アンテオケと進みましたが、ユダヤ人だけにみ言葉を語っていました。ところがそこに、数人のクプロ人とクレネ人がいて、アンテオケに行ってギリシヤ人にも呼びかけて、主イエスを宣べ伝えていました。主のみ手が彼らと共にあったので、信じる人々がおこされました。

祈り

天のお父様、あなたはマイナスと思われるようなことさえ用いて、あなたの栄光をあらわされることがわかりました。

# 8月14日(月)

聖書

使徒11・1～18

聖句

「それでは神は、異邦人にも命にいたる悔改めをお与えになったのだ」と言った。18節

たちまち、ニュースが使徒たちや、ユダヤにいる兄弟たちに届きました。ペテロがエルサレムに上った時、昔からの習慣を大切にしている人々がペテロを責めて言いました、「あなたはどうして異邦人なんかといっしょに食事をしたのですか」と。そこでペテロは一部始終をその人たちに話しました。「彼らにも同じように聖霊がくだった時、『聖霊によってバプテスマを受け』との主の言葉を思いだした」とも。人々は黙り、神様を尊び、納得しました。

祈り

天のお父様、ペテロの証言によって、異邦人にも悔い改めて命を得る道が開かれたことを知り、感謝します。

## 8月17日(木)

聖書

使徒11・25～26

聖句

このアンテオケで初めて、弟子たちがクリスチャンと呼ばれるようになった。  
26節

バルナバはうれしい悲鳴をあげます。なぜって、主の群れに加わる人々が大勢になってきたからです。さて、どうしたでしょう。そうだ！ サウロに助けてもらおうと思いついて、サウロを捜しにタルソへ行き、見つけて連れて帰りました。まる一年、この教会で集まりをし、人々を教えました。そこではじめて弟子たちが『クリスチャン』と呼ばれるようになったのです。あだ名なのです。いつでもどこでもキリスト。キリスト屋だっというあだ名、栄光あるあだ名です。

祈り 天のお父様、弟子たちの熱心によってクリスチャンと名づけられました。私もふさわしく、日々生きられますように！

## 8月16日(水)

聖書

使徒11・22～24

聖句

彼は聖霊と信仰とに満ちた立派な人であったからである。  
24節

うわさには速い足がついていますね。さっそうこのアンテオケで多くの人々がイエス様を信じるようになったといううわさ(といっても現実でしたが)がエルサレム教会へ届いたので、教会はバルナバをアンテオケにつかわしました。聖霊に満たされ、信仰のあつい立派な人だったバルナバは、アンテオケに着いて、神様の恵みを見て喜びました。そして主を信じる信仰をしっかりと持ち続けるようにと、みんなを励ましたのです。私たちも人々を励ます人になりたいですね。

祈り 天のお父様、私もバルナバのように聖霊と信仰とに満ちた人とされて、人々を励ます人とならせてください。

## 8月19日(土)

聖書

ローマ10・5～13

聖句

同一の主が万民の主であって、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さるからである。  
12節

「ユダヤ人とギリシャ人との差別はない」(12)とあります。だから、ユダヤ人と日本人との差別もありません。すべての国籍の人々、すなわち、万民の主がイエス様ですね。イエス様を心から呼び求めるすべての人に、豊かに恵みを与えてくださる神様なのです。何とすばらしい神様を知らせていただいたことでしょう！だから今、私たち日本人もこうしてクリスチャン仲間入りができます。教会を訪れる、すべての人をお迎えし、心を開き、救われる人がたくさん加えられますように！

祈り 天のお父様、イエス様のみもとにはどんな人が行っても迎えられ、受け入れられることを味わい、感謝します

## 8月18日(金)

聖書

ローマ3・21～26

聖句

彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。  
24節

「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」(ローマ3・23)とあります。ユダヤ人も、ギリシャ人も、日本人も、全世界のすべての人です。でもイエス様によつてあがないがなされました。つまり、罪のないイエス様が私に代わって十字架で死んでくださった、「私の罪のため」と信じるだけで、罪がゆるされ、神様の前に正しい者とされます。本当に恵みというほかありません。だれ一人として、誇る事ができません。

祈り 天のお父様、全世界、全時代のすべての人の罪をゆるしてください。イエス様の十字架の血潮を感謝します。

# 8月20日(日)

聖書

使徒12・1~17

聖句

教会では、彼のために熱心な祈りが神にささげられた。 5節

クリスチャンたちのピンチ！リーダーのヤコブはヘロデ王の圧迫の手により、つるぎで切り殺されました。同じくリーダーだったペテロをも捕えて獄に入れてしまいました。過越の祭りのあとで、民衆の前に引き出して殺すつもりでいたのです。教会の人はどうしたでしょうか。もう恐ろしくなって、信仰を捨てたでしょうか。いえ、ペテロのために熱心な祈りを神にささげました。小さな群れにできることは祈りだけだったし、それが最高のことでした。

**祈り** 天のお父様、私たちに「祈り」という力強い武器を与えてくださり感謝です。もっともっと祈ることができますように。



聖書

使徒12・1~17

タイトル

ペテロの解放

暗唱聖句

教会では、彼のために熱心な祈りが神にささげられた。

使徒12・5

目標

教会の祈りの力の大きさを確信する。

# 8月22日(火)

聖書

使徒12・7~9

聖句

すると、突然、主の使がそばに立ち、光が獄内を照した。 7節

そうです。このような時、教会の人々がペテロのためにできたことは「お祈り」だけでした！この7節は、前の5節からつづきますね。「熱心な祈りが神にささげられた」。すると突然、思いがけない神様から直通の業が起ったのです。主の使がペテロのわき腹をつついて起こし（そんなに熟睡していたのです！、「早く起きあがりなさい」と言う）、なんと、二重の鎖が両手からはずれ落ちました。御使いの言う通り、帯を締め、くつをはき、上着を着て行つたのです。

**祈り** 天のお父様、教会の祈りがどんなにかあなたに喜ばれ、また力があるかよくよくわかりました。

# 8月21日(月)

聖書

使徒12・1~6

聖句

こうしてペテロは獄に入れられていた。 5節

殺されるために獄に入れられているなんて、ペテロは一体どんな思いでいたのでしょうか？ 四人一組の兵卒四組の人々がペテロの見張りをしていたのです。二人の兵卒が一人ずつペテロの両側にいてペテロをつかまえていました。他の二人は戸口のところで見張っていました。しかもペテロは二重の鎖につながれていたのです。身動きもできないほどです。それなのに、ペテロは眠っていたのです。この彼のために、一体だれに何ができるといえるのでしょうか。

**祈り** 天のお父様、あなたを信じる者にもピンチがおとずれます。しかし、助けの門が開かれていることを感謝します。

## 8月24日(木)

聖書

使徒12・12~17

聖句

その家には大ぜいの人が集まって祈っていた。 12節

われにかえったペテロは、一番に行くべき所をよく知っていました。そうです。祈りの家です。マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家でした。ペテロの思った通り、その家には大勢の人が集まって祈っていました。次の場面はユーモラスですね。門の戸をペテロがたくとお手伝いの口ダが、ペテロの声だと知って、喜びのあまり、門をあけもしないで、みんなに報告しました。祈っていたのに、だれ一人信じないのです!! こんなこと、あなたにはなかったですか?

いのちの祈り

天のお父様、あなたは本当に真実に、祈りにこたえてくださいます。どこまでもあなたの真実に頼らせてください。

## 8月23日(水)

聖書

使徒12・10~11

聖句

その時ペテロはわれにかえって言った、「今はじめて、ほんとうのことがわかった。 11節

ペテロはその時、自分はきつと夢を見ていたのだと思っていたのでしよう。考えてみれば本当に現実のことは思えませんか。第一、第二の衛所を通り過ぎました。さあ、次は鉄の門です。果たして? ところが御使いとペテロがその前に来ると、アラ、不思議、その重い鉄の門がひとりでにすーっと開くではありませんか。それから一つの通路に進んだとたんに、御使いはいなくなりました。ペテロはハッとして、主が救い出してくださったのだと悟りました。

いのちの祈り

天のお父様、今も私たちが祈る時、あなたは必ずや必要な助けと救いを与えてくださる神様であることを信じます。

## 8月26日(土)

聖書

1 ペテロ4・7~11

聖句

万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。 7節

ペテロがこの手紙を書き記してからもう二千年近くもたっているのですから、今、私たちはいよいよ万物の終わりが近い時に生かされているわけです。だから、考え深く行動し、身をつつしんで、もつともつとよく祈りたいものです。ものすごい祈りの力を体験したペテロは、獄からでたその時以来、きつといつでも「祈り第一」、「祈り最優先」のスピリットが身についていたのでしょう。お祈りは最大の愛です。家族やお友だちや教会の人たちのためにお祈りしましょう。

いのちの祈り

天のお父様、小さい私のお祈りにもきつとこたえてくださると信じて、ますますお祈りを励むことができますように。

## 8月25日(金)

聖書

使徒12・18~24

聖句

こうして、主の言はますます盛んにひろまって行った。 24節

さて迫害者ヘロデの方は言えば、ペテロを探しても見つからないので、番兵たちを死刑にしてみました。何とむごいやり方でしょう。そのころ、ツロとシドンの人々がヘロデ王の氣にいらぬことをして怒りを買ったので、何とか和やかになれたらと、王の侍従官プラストに頼みました。ある日、ヘロデが王服を着て王座にすわって演説中、人々は「これは神の声だ、人間の声ではない」と叫びつけました。たちまちヘロデは虫にかまれて死んだのです。

いのちの祈り

天のお父様、ごう慢きあまりないヘロデの死により、主の言葉がますます盛んに広まったことを感謝します。

# 8月27日(日)

聖書

使徒 14・8~18

聖句

天と地と海と、その中のすべてのものを造りになった生ける神に立ち帰るように。 15節

日本にもいろいろな神がありますが、このルステラの人たちもまた日本の神とはちがう、ギリシャの神々を拝んでいたようです。パウロが、生れながら足の動かない人、全く歩いた経験のない人を完全にいやした時、その奇跡にひどく驚いた人々は、「神々がお下りになった」と興奮して、バルナバとパウロに犠牲をささげて拝もうとしました。「とんでもない! 天地万物を造られたまことの神様はただひとり、この生ける神様に立ち帰るよ」に「と。パウロは語りました。

いのちの祈り 天のお父様、あなたは生きておられる万物の造り主です。日本の人々もこの唯一まことの神様に立ち帰れますように。



聖書

使徒 14・8~18

タイトル

ルステラにて

暗唱聖句

天と地と海と、その中のすべてのものを造りになった生ける神に立ち帰るように。使徒 14・15

目標

偶像を捨てて、まことの神に立ち帰ろう。

# 8月29日(火)

聖書

使徒 13・4~12

聖句

サウロ、またの名はパウロ、は聖霊に満たされ、彼をにらみつけて言った。 9節

二人は聖霊に送り出されました。セルキヤから船で、バルナバの郷里クプロに渡りました。パposという所でユダヤ人の魔術師バルイエスという偽預言者に出会いました。また魔術師エルマは地方総督セルギオ・パウロが神様の言葉を聞くこととして信じているのに、信仰からそうとして邪魔ばかりしてきます。サウロ、またの名はパウロが聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、言った通り、ことが起こり、総督は、すっかり驚いて主を信じたのでした。

いのちの祈り 天のお父様、魔術師の力にも打ち勝つ聖霊の力を知りました。私をも聖霊に満たしてお用いください。

# 8月28日(月)

聖書

使徒 13・1~3

聖句

聖霊が「さあ、バルナバとサウロとを、わたしのために聖別して、彼らに授けておいた仕事に当たらせなさい」と告げた。 2節

今週は、バルナバとサウロ(クプロ島でパウロとなる)を、聖霊が任命してつかわした第一次伝道旅行を学ぶことにします。二人は自分たちの野望とか冒険心を、満足させるために出かけたのではありませんでした。聖霊が告げた通りにしたのです。二人はただ神様の仕事のために聖別されました。そして、アンテオケ教会の人々は断食をし、しっかりと祈りをし、手を二人の上において出発させました。

いのちの祈り 天のお父様、今も神様のお仕事のためには、聖霊が語り示してくださるということを信じます。

8月31日(木)

聖書

使徒13・15~32

聖句

しかし、神はイエスを死人の中から、よみがえらせたのである。 30節

パウロとバルナバは前進あるのみでした。ペルガからピシディアのアンテオケに行き、安息日に会堂に入り席に着きました。会堂司たちがパウロたちの所に人をつかわして、「この人々に何か奨励の言葉がありましたら」と言わせました。パウロはすぐさま立ち上がって、手を振りながら語りました。「しかし、神はイエスを死人の中から、よみがえらせたのである」と、十字架と復活を大胆に話しました。十字架と復活こそが、パウロのメッセージの中心だったからです。

いのちの祈り  
天のお父様、十字架という筋金の入った者として、いつでもどこでもだれにでも十字架と復活をあかしさせてください。

8月30日(水)

聖書

使徒13・13~14

聖句

ここでヨハネは一行から身を引いて、エルサレムに帰ってしまった。 13節

ヨハネはなぜ一行を離れてエルサレムに帰ってしまったのでしょうか？ そもそも彼は聖霊による任命はもらっていないし、頭に手をおいて祈ってもらうこともありませんでした。またクプロにおける出来事や、これから起こってくるさまざまな危険を思って、次第に恐ろしくなっていたのかも知れません。もうこれでヨハネは役に立たない人となってしまったのでしようか。のちにパウロはこのヨハネ（マルコのヘブル名）を役に立つ人と手紙に書きました（Ⅱテモテ4・11）。

いのちの祈り  
天のお父様、一度は恐ろしくなっても主の働きから身を引いたヨハネをも、役立つ人としてくださった主をあがめます。

9月2日(土)

聖書

使徒14・19~28

聖句

「わたしたちが神の国にはいるのに、多くの苦難を経なければならぬ」 22節

ルステラで足の不自由な人をいやした。パウロを、ユダヤ人たちが群衆は石で打ちました。死んでしまったらと思うと、パウロを町の外に引きずり出しました。ところが弟子たちがパウロを取り囲んでいる間に、彼は起きあがって町に入って行きました！ もう翌日にはバルナバとデルベへ行き大勢の人を弟子として、またしても迫害の町々へ帰っていった弟子たちをカづけ、「わたしたちが神の国にはいるのに、多くの苦難を経る」と語りました。説得力は大でした！

いのちの祈り  
天のお父様、私たちもパウロのようにたくましく、苦難にもめげずに神の国に向かって進ませてください。

9月1日(金)

聖書

使徒13・33~41

聖句

ダビデは、その時代の人々に神のみ旨にしたがって仕えた。 36節

ここでパウロは、よみがえって生きておられるキリストを、眠りにつきついに朽ち果ててしまったダビデと比較しています。人としてダビデの姿に倣いたいと思います。すなわち、「その時代の人々に仕えました」。今、あなたが生かされているこの時代の人々に、心を込めてお仕えしたいものです。さらに「神のみ旨にしたがって仕えた」とあります。自分の願いどおりにはちがいます。神様ののみ旨に従ってです。み旨を行うため、み言葉と祈りの時をもちましよう！

いのちの祈り  
天のお父様、小さな私ですが、ただあなたのみ旨を行うことを教えてください、ますます信じて従わせてください。



# 9月3日(日)

聖書

使徒16・16～34

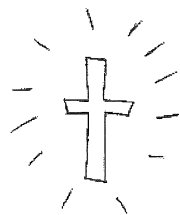
聖句

主イエスを信じなさい。そうしたら、  
あなたもあなたの家族も救われます。

31節

聖書の神様は家族の救いを約束してくだ  
さいます。ノアと家族、ラハブと家族、ルデヤと  
家族、そしてここで獄吏と家族が救われます。  
パウロとシラスが獄屋に入れられ、足には鎖が  
しっかりとかけられていたにもかかわらず、  
真夜中に神様に祈り、賛美を歌いつづけた時、  
神様は地震をもつて彼らの祈りにこたえられま  
した。一瞬、信じられない状況！でも、だれ  
一人逃げません。獄吏が恐れかしくみひれ伏し  
「救われるために何を」と叫ぶのに対し、確信に  
満ちた答えがひびきました。

祈り 天のお父様、家族をも救いますとの約束を  
感謝します。つづいて家族全員が救われますよう  
お祈りします。



聖書

使徒16・16～34

タイトル

獄屋にて

暗唱聖句

主イエスを信じなさい。そうしたら、  
あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒16・31

目標

主イエスを信じるなら、家族も救  
われるという約束をつかむ。

# 9月5日(火)

聖書

使徒16・11～15

聖句

主は彼女の心を開いてパウロの語  
ることに耳を傾けさせた。14節

マケドニアの第一の地方都市ピリピに行っ  
て数日間そこにいました。ある安息日に、川の  
ほとりの祈り場に行き、そこにすわりました。  
「川のほとりの祈り場」と聞くだけでも、  
何かすばらしいことが起こりそうな感じが  
します。まさに、そこに紫布の商人でルデヤと  
いう婦人がいたのです。さらにすばらしいこ  
とに主が彼女の心を開かれ、彼女は家族と  
一緒にめでたく救われバプテスマを受けまし  
た。やがてルデヤの家はピリピの教会となっ  
ていきました。

祈り 天のお父様、私が語る時、あなたが人々の  
心を開いてくださって、救いにみちびかれるよ  
うにとお祈りします。

# 9月4日(月)

聖書

使徒16・1～10

聖句

「マケドニアに渡ってきて、わたし  
たちを助けて下さい」 9節

今週はパウロの第二次伝道旅行から学びましょ  
う。ルステラで出会った若いテモテを連れて行き  
ました。ここに理解しがたいことが出てきます。  
進路が、御霊によって閉ざされる経験です。「え、  
どういうこと!」と言いたくなるようなところ  
がトロアスに着いた時、夜、一つの幻を見て神様  
の導きと迫りを覚えたのでした。「神がわたした  
ちをお招きになったのだと確信して、わたしたち  
は、ただちにマケドニアに渡って行くことにし  
た」。ルカも一緒でした。

祈り 天のお父様、御霊は、時には禁じられること  
を知りました。いつでも御霊の声に聞き従えま  
すように助けてください。

## 9月7日(木)

聖書

使徒16・19～25

聖句

真夜中ごろ、パウロとシラスとは、神に祈り、さんびを歌いつづけたが、囚人たちは耳をすまして聞きいつづけていた。

25節

パウロとシラスの足はしばられ、つながれていましたが、彼らの魂は全然つながれてはいません。むしろ、つらいことをのりこえた、あっぱれな信仰でした。彼らは何をさしづめたのでしょうか？ もしかして、詩篇だつたかもしれません。その時、囚人たちは耳をすまして聞き入っていました。そんなにも美しかったのでしょうか。そこに、祈りと賛美にこたえて神様から地震の応答がありました！ あなたはどんな時、祈ったり賛美したりしますか？

いのちの祈り 天のお父様、パウロたちのようにどんな時にも、どんな所でもあなたに祈り、賛美できるようにしてください。

## 9月6日(水)

聖書

使徒16・16～18

聖句

「イエス・キリストの名によって命じる。その女から出て行け」18節

福音はルデヤのように高貴な婦人ばかりでなく、卑しめられていた婦人にも自由と解放の喜びを与えました。ここに出てくる「占いの霊につかれた女奴隷」もまた、パウロを通して恵みにあずかります。うるさく付きまとい、叫び続けるこの女奴隷に向かって、「イエス・キリストの名によって命じる。その女から出て行け」と命じるやいなや、その瞬間に霊が女から出て行ってしまいました！ あわれだつた女奴隷はみごとに占いの霊から解放され、回復していきました。

いのちの祈り 天のお父様、自分でどうすることもできない人々も、イエス様のみの力によって救われることを感謝します。

## 9月9日(土)

聖書

使徒16・35～40

聖句

彼らは、ローマ人であるわれわれを、裁判にかけもせずに、公衆の前で打ち打ったあげく、獄に入れてしまった。

37節

何というすがすがしい朝だつたでしょう。か。全く新しい夜明けでした。長官たちは警吏らをつかわして、「あの人たちの釈放せよ」と言わせました。獄吏からその言葉を聞いたパウロはすかさず言いました。「ローマ人であるわれわれ」と。このローマ市民権は、パウロが父親からゆずり受けたものです。神様はさまざまに準備を、パウロが知らない内からしていただくことができました。長官たちは、自分ですべてやってきました。

いのちの祈り 天のお父様、あなたがなさるさまざまの準備は、驚くばかりです。私のためにもすべてを備えていてくださると信じます。

## 9月8日(金)

聖書

使徒16・32～34

聖句

それから、彼とその家族一同とに、神の言を語って聞かせた。

32節

かなりの興奮の中で、獄吏は「救われるために、何をすべきでしょうか」と叫び、ひれ伏していました。そしてパウロとシラスは、「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」と答えたのでした。その次には、私たちの信仰生活で一番大切な「神の言」を、彼とその家族一同とに語って聞かせたのでした。神様の言葉がしっかりと土台となっていなければ、熱心と思える信仰もくずれていったり、消えていったりしてしまふからです。

いのちの祈り 天のお父様、しっかりとした信仰の土台を保ち続けるために、神様の言葉をよく読み、味わうことができますように。

# 9月10日(日)

聖書

使徒17・16～34

聖句

われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。 28節

パウロの第二次伝道旅行の後半は、アテネとコリントでの伝道でした。アテネで、テモテとシラスを待つ間、市内にあるおびただしい偶像を見て、心に憤りを覚えました。そして、アテネの人々に、「宗教心に富んでいるのはいいけれど、偶像があまりに多く、中には『知られない神』とまであります。その知られない神について見ることにしましょう。これまで知らないでいたまことの神様は、私たちの近くにおられ、私たちは神のうちに生き、動き、存在しているのです」と語りました。

いのちの祈り

天のお父様、唯一まことの神様のうちに生き、動き、存在している幸いを心より感謝しています。



聖書

使徒17・16～34

タイトル

アテネ宣教

暗唱聖句

われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。

使徒17・28

目標

偶像に満ちたアテネでの説教に学ぶ。

# 9月12日(火)

聖書

使徒17・10～15

聖句

果してそのとおりかどうかを知らうとして、日々聖書を調べていた。 11節

テサロニケから、パウロとシラスはただちに夜の間にベレヤに送り出されました。ベレヤにつくとさっそく、ユダヤ人の会堂に行きました。このベレヤにいるユダヤ人たちはテサロニケの者たちよりも素直で、心から教えを受け入れ、彼らの言うとおりにかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていました。だから多くの者たちが信者になっていきました。本当に「御言には、あなたがたのたましいを救う力がある」(ヤコブ1:21)ことがよくわかります。

いのちの祈り

天のお父様、一日の内に時間をつくって、ベレヤの人たちのように日々聖書を調べることができるよう！

# 9月11日(月)

聖書

使徒17・1～9

聖句

「天下をかき回してきたこの人たちが、ここにもはいり込んでいます。 6節

第二次伝道旅行の後半です。まずはテサロニケで、一ヶ月足らずのうちに教会が誕生していきましました。キリストの十字架と復活を思いきつて語り、イエスがキリストであると説明をしたり、証拠をあげて考えをはつきりさせましたのでした。ギリシヤ人や貴婦人たちがパウロたちに従うのを知って、ユダヤ人たちはねたみを覚え、ならず者を集めて騒ぎをおこしました。ヤソング二人をかくまっていると叫び、「この人たちは天下をかき回してきた」と言います。そういわれるほどにも伝道したいですね。

いのちの祈り

天のお父様、パウロとシラスの宣教は、「天下をかき回す」ようなものでした。私たちの存在もそうあらせてください。

## 9月14日(木)

聖書

聖句

使徒17・22～34

死人のよみがえりのことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、またある者たちは、「この事については、いずれまた聞くことにする」と言った。

32節

人々の意外な反応！「死人のよみがえりだつて？」とある者たちはパウロのメッセージをバカにして笑いました。他の人々の中には、「死人のよみがえりとか、何とか言っているけど、その事については、近いうちに聞くことにするよ」と、とても思いっきりが悪く、ほとんど無関心の人もあり、さすがのパウロも落ち込んでしまいました。今、私たちの国もこんなようすかもしれません。しかし、語りたいですね。

いの

祈り 天のお父様、どんな反応であっても、真理である十字架と復活を思いきって語れるように助けてください。

## 9月13日(水)

聖書

聖句

使徒17・16～21

パウロが、イエスと復活とを、宣傳えていたからであった。 18節

アテネの市内にはおびただしい数の偶像がありました。さらには人生楽しければよいとするエピクロス派や、理性に従うことが良いとするストア派の哲学者たち数人もいて、パウロと議論を戦わせました。「このおしゃべりは、いったい、何を言おうとしているのか」「あれは、異国の神々を伝えようとしているらしい」。おまけに、耳新しい教えにのみ興味を示す人々もあります。パウロは必死でイエス様のことと、復活のことを宣傳えていました。私たちが伝えるのも十字架と復活なのです。

いの

祈り 天のお父様、伝道が難しい地にあっても、いつもイエス様の十字架と復活を語り伝えていく者としてください。

## 9月16日(土)

聖書

聖句

Iコリント2・1～4

わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

2節

「ここにもう一度、念を押すようにくり返されています。パウロがアテネからコリントに行った時、どんなに心弱く、かつ恐れ、ひどく不安であったかを告白しています。パウロでもそうだったのです。まして弱く小さい私たちも、イエス様を信じていても時に恐れや不安を覚えるでしょう。その時に仰ぐのがイエス様です。十字架につけられたイエス様のみが、私たちの心の支え、力の源泉なのです。」

いの

祈り 天のお父様、私の心も今日パウロのように決まりました。十字架につけられたイエス様がすべてのすべてです。

## 9月15日(金)

聖書

聖句

Iコリント1・18～31

しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣傳える。

23節

アテネ宣教は失敗だったのでしょうか？神様はここにおいても、すべてを益としてくださるお方だということを味わいましょう。パウロはアテネでギリシヤ人のようになって、少なからず得意気に知恵と知識を用いた説教をしたのですが、迫害よりも耐えられない無視とあざけりの反応でした。そこでパウロの魂の奥深くに一つの決心、決断が与えられたのでした。それがこの言葉です。そう、十字架につけられたキリストだけを宣傳えるのだ！と。

いの

祈り 天のお父様、あなたは失敗と思えることから、貴重なことを教えてくださるお方であることを感謝します。

# 9月17日(日)

聖書

使徒18・1～11

聖句

あなたには、わたしがついてい

10節

恐れと不安と弱さの中で、コリントの町にや  
てきたパウロでした。シラスとテモテが援助金  
もってマケドニアから下つてきてからは、パウロは  
み言葉を伝えることに専念し、イエスがキリスト  
であることを、ユダヤ人たちに力強くあかしし  
ました。ところがユダヤ人たちの反抗とのし  
りに会い、異邦人のほうに行くことと断言。会堂司  
クリスポと家族、多くのコリント人も信じまし  
た。そうしたある夜、幻のうちに主の言葉と  
臨在がパウロを大いに励ましました。

いのちの折

天のお父様、あなたのことを伝える器をい  
つも守り、助け、支え、励ましてくださることを、  
ありがとうございます。



聖書

使徒18・1～11

タイトル

コリント宣教

暗唱聖句

あなたには、わたしがついてい  
る。

使徒18・10

目標

困難なコリント宣教でも神様の  
励ましが力となったことを知  
る。

# 9月19日(火)

聖書

Iコリント9・15～18

聖句

わたしが福音を宣べ伝えても、それ  
は誇にはならない。なぜなら、わた  
しは、そうせずにはおれないからで  
ある。

16節

コリント宣教だけでなく、パウロの  
宣教のスピリットがコリント人への手紙に  
示されています。パウロにとって、福音を  
宣べ伝えるということは決して誇りでは  
ありませんでした。パウロの魂の内側  
から、宣べ伝えないではいられないとい  
う思いがあふれていたのです。しかも福音  
を宣べ伝えないとしたら、私は災いで  
あるとまで言っているではありません  
か。あなたの心の内もそう叫んでいるで  
しょうか。

いのちの折

天のお父様、豊かな福音に生かされ、私も宣  
べ伝えないではいられないとの思いを与えられ  
ますように。

# 9月18日(月)

聖書

使徒18・1～4

聖句

そこで、アクラというポント生れの  
ユダヤ人と、その妻プリスキラとに  
出会った。

2節

出会いはすべて神様からのもの。その出会  
いはお互いを引き上げ、励まし、力づける出  
会いです。彼らもパウロと同業で、天幕造りが  
その職業でした。ちょうどよい時にクラウ  
デオ帝がローマからユダヤ人を退去させ、  
ちょうどよい時にパウロもアテネからコリン  
トへやってきました。「彼らは、わたしのいのち  
を救うために、自分の首をさえ差し出して  
くれたのである」(ローマ16・4)とパウロは記し  
ます。このような同じ使命を共に労する同労  
者を持てるとは何という祝福でしょう。

いのちの折

天のお父様、クリスチャンとしての歩み、  
奉仕のためのよき同労者も、あなたが備えてくだ  
さることを信じます。

# 9月21日(木)

聖書

I コリント 9・24~27

聖句

あなたがたも、賞を得るように走りなさい。 24節

たしかに競技場で走って賞を得る人はたった一人でしょう。賞を得るように、私たちも神様といっしょに、毎日走りたいです。それはどうすることでしょう? 「何」にも節制をする。競技をする人々は朽ちる冠のためにそうしますが、私たちは朽ちない冠を得るためにそうします。神様に喜ばれる子どもになることをめざして、自分のからだを打ちたたいて服従させることによって、賞を得るように走ることが出来ます。パウロは何事においても本気だったのですね。

いのちの祈り  
天のお父様、あなたがいつも私のことを心にかけてくださり、主の証人としてのレースを完走させてくださると信じます。

# 9月20日(水)

聖書

I コリント 9・19~23

聖句

福音のために、わたしはどんなことでもする。わたしも共に福音にあずかるためである。 23節

「すべての人に対しては、すべての人のようになつた。なんとかして幾人かを救うためである」。パウロがいかに一人一人の魂をキリストのために獲得したくてしたくてたまらないか、びんびん伝わってきます。私たちはそうできるでしょうか? 幼い子どもには幼い子どものように、恥ずかしがり屋の子どもには恥ずかしがり屋の子どものように、弱虫の子どもには弱虫の子どものようにして、福音を多くの方に伝えるためにどんなことでもできたらいですね。

いのちの祈り  
天のお父様、私も、福音をひとりでも多くの方に伝えるために、どんな人にもなり、どんな事もさせてください。

# 9月23日(土)

聖書

使徒 19・1~10

聖句

「あなたがたは、信仰にはいった時に、聖霊を受けたのか」 2節

このアポロがコリントにいる時、パウロはいよいよ第三次伝道旅行に入り、エペソの町にやってきました。12人ほどの弟子たちに出会ってまず、「信仰にはいった時に、聖霊を受けたのか」と。すると「いいえ、聖霊なるものがあることさえ、聞いたことがありません」と答えました。パウロの勧めにより、主イエスの名によるバプテスマを受け、パウロが彼らの上に手を置くことと聖霊がくだり、いろいろな言葉で語りだしました。その後ツラノの講堂で、2年間毎日主の言葉を語りました。

いのちの祈り  
天のお父様、聖霊の賜物がどんなに大切なものであるのかよくわかります。聖霊に満たされた毎日としてください。

# 9月22日(金)

聖書

使徒 18・24~28

聖句

それをプリスキラとアクラとが聞いて、彼を招きいれ、さらに詳しく神の道を解き聞かせた。 26節

聖書に精通し、しかも雄弁なアポロ、この人は主の道に通じているし、霊に燃えてイエス様のことを詳しく語ったり、教えたりしていました。すごいなと思うのですが、ただヨハネの水のバプテスマしか知らなかったのです。アポロが会堂で大胆に語るのを聞いて、アクラ夫妻は自分の家にアポロを招きいれて、さらに詳しく神様の道、すなわち、聖霊のバプテスマについて語りました。それはアカヤで信者の人たちに、大いに力になりました。

いのちの祈り  
天のお父様、あなたの道のさらに深い所を伝えたアクラ夫妻のように、私も聖霊に満たしてください。

# 9月24日(日)

聖書

使徒19・11~22

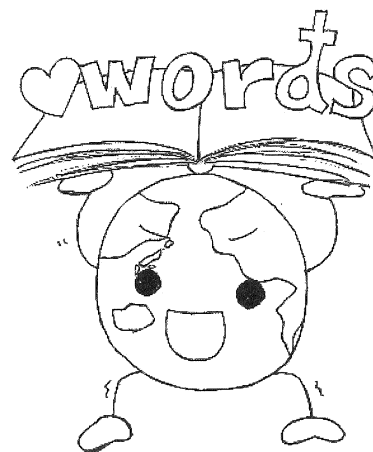
聖句

このようにして、主の言はますます盛んにひろまり、また力を増し加えていった。 15節

今回はパウロの第三次伝道旅行、すなわちエペソ宣教からの学びです。一言で言えば悪霊との戦いでした。神様はパウロを用いて異常な力あるわざを行なわれ、身につけている手ぬぐいや前掛けを病人にあてるといやすれ、悪霊が出て行きました。しかし悪霊を軽く見るとスケワの七人のむすこたちのようにひどい目に会います。信者が魔術の本を持ち出して焼き捨てました。値段の総計が銀五万にもなるほどでした。こうして主イエスの名があがられました。

いのちの祈り

天のお父様、悪霊や魔術が取り除かれていく時、主の言葉が広まり力を増して行くことを覚えさせてくださり汚れを除かせてください。



聖書

使徒19・11~22

タイトル

エペソ宣教

暗唱聖句

このようにして主の言はますます盛んにひろまり、また力を増し加えていった。 使徒19・20

目標

悪霊との戦いに勝利したエペソ宣教に学ぶ。

# 9月26日(火)

聖書

使徒20・17~19

聖句

謙遜の限りをつくし、涙を流し、ユダヤ人の陰謀によってわたしの身に及んだ数々の試練の中にあって主に仕えてきた。 19節

ミレトの港においてのエペソの長老たちへのパウロの別れの言葉を味わいましょう。謙遜の限りをつくしたパウロ、涙を流したパウロの姿を思ってみてください。パウロは異邦人宣教に召されましたが、同胞ユダヤ人へのあかあかと燃える火のような愛をもっていました。そのユダヤ人の陰謀により数々の試練が身に及んだのですから心も痛んだでしょう。そのような中において、「私は主に仕えてきた」というのがパウロのあかしです。

いのちの祈り

天のお父様、まさにキリスト・イエスの囚人、僕、奴隷としてパウロが主に仕えてきた見本を感謝します。

# 9月25日(月)

聖書

使徒20・7~12

聖句

人々は生きかえった若者を連れかえり、ひとかたならず慰められた。 12節

エルサレムへ、そしてローマへとパウロの心はやりります。エペソを去る時のできごとと、パウロの心境を見ましよう。パウロが翌日エルサレムへ出発という前の晩、人々と夜中まで語り合いました。明かりがたくさんとしてあつた屋上の間の窓に腰掛けていた若者ユテコが、パウロの長い話で寝入ってしまった。三階から下に落ちて死んでしまいました。ところがパウロは折り、彼の上に身をかがめて抱き上げ、「まだ命がある」と言って、明け方まで語り合いました。

いのちの祈り

天のお父様、死人の息を吹き返させる、聖霊によるパウロのみわざに改めて感動します。聖霊の器にしてください。



## 9月28日(木)

聖書

使徒20・22～24

聖句

わたしは自分の行程を走り終え、主イエスから賜わった、神のめぐみの福音をあかしする任務を果し得ましたら、このいのちは自分にとって、少しも惜しいとは思わない。 24節

「使命」とは「命を使う」ことです。神様は一人一人に、一回きりの大切な人生に、「使命」、すなわち果たさなければならぬ働きを与えてくださいます。パウロにとっての使命とは、「主イエスに賜わった、神のめぐみの福音をあかしする任務」でした。このことを果しながら、自分の走るべきコースを走りぬくことができたならば、このいのちは少しももつたいたくない、このためだけのこのいのちなのだからと言います。

いの祈り

天のお父様、パウロと同じように私にも神様の恵みの福音を与えてくださって感謝します。十分に証しできますように。

## 9月27日(水)

聖書

使徒20・20～21

聖句

ユダヤ人にもギリシャ人にも、神に対する悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、強く勧めてきたのである。 21節

他の人の益のためだったら、人々の前においても、家々においても、すべてあますところなく話して聞かせ、また教えたというパウロ。そのようにして、しばしばユダヤ人から迫害を受け、議会に立たせられたり、獄に入れられたりしたのでしたね！ その中心は、選民(ユダヤ人)であつても、異邦人(ギリシャ人)であつても、神様に対しては悔い改めることと、イエス様に対しては信仰をもつことを強く勧めることでした。

いの祈り

天のお父様、私にもパウロがもっていた真の勇気と情熱を与えてくださって、大胆に人々に語る者になしてください。

## 9月30日(土)

聖書

使徒20・33～38

聖句

『受けるよりは与える方が、さいわいである』 35節

パウロは福音を伝えるという面でもバリバリ働いた働き人でした。生活の面でも、ただ自分の生活のためだけにでなく、一緒にいた人たちのためにも働いてきました。だからあなたがたもしっかりと働いて、弱い者を助けるようにと勧めます。そしてイエス様が言われた言葉、『受けるよりは与える方が、さいわいである』との言葉を記憶しておきなさいと語ります。実はこれこそが豊かな人生の鍵となる言葉です。実行していきましょう。

いの祈り

天のお父様、働きにおいてもたくましかったパウロに拍手をすると共に、彼の与えるスピリットにもなります。

## 9月29日(金)

聖書

使徒20・25～32

聖句

今わたしは、主とその恵みの言に、あなたがたをゆだねる。 32節

パウロの心はどんなにか、生み出した教会のこと、群れの一人一人のことを思い、いつまでも共にいたいと思つたことでしょう。でも今、エペソの教会の長老たちにゆだねようと言います。教会は神様ご自身の尊い血でつくられた神様のものとされたのだから、しっかりと目をさまして守りなさいと言います。そして今、パウロはその大切なエペソの群れを主ご自身の御手と、主の恵みの言葉とにゆだねるのです。その御手とみ言葉こそ、ゆだねて絶対に大丈夫だからです。

いの祈り

天のお父様、私にも、大切な人や物をゆだねても絶対に大丈夫なあなたの御手と恵みの言葉をくださり感謝します。